

自身の動きや仲間の動きを見て、振り返り、新たな課題発見につなげる

■ 使用する機器、アプリ等

iPad

■ 学習のねらい

- ・応急手当の知識を活用し、その場に応じた応急手当を判断することができる。
- ・その場に応じた応急手当(心肺蘇生法)を適切に素早く行うことができる。

■ 授業の流れ(50分) ※全8時間のうち4時間目

時間	学習活動
5分 導入	○前時までの学習の確認 ○本時の目標の確認
5分 展開①	○デモンストレーション ・教員が見本となり、ある場面に合わせた心肺蘇生法を実施
15分 展開②	○グループに分かれ、心肺蘇生法の実習開始 ・前半グループと後半グループに分ける ・前半グループが実施中、後半グループは iPad で実習の様子を録画する ・前半グループが実施中は、気づいたことをワークシートに記入していく ・後半グループも同様に実習、前半グループが録画、ワークシートに記入していく
15分 展開③	○録画し合った動画を各グループで観る。 ・iPad に録画された映像を見ながら、自分たちの動きを振り返る ・ワークシートの項目に沿って、グループ内で意見や感想を伝え合い、記入していく
5分 展開④	○ペアの班に、実習を見た感想を伝え合う。 ・良かったところや改善点を伝え合う
5分 まとめ	○ワークシートの回収、実習用具の片付け ○学習を振り返る。

※本時における授業内での全体共有はないが、単元計画には、次時に全体共有の時間を計画されている

■ ココで ICT を活用！

動画1

自身や仲間の動きを動画に撮る

グループ協議の際に繰り返し見ることができるよう、グループ全員(全体)の応急手当の動きが把握できるように、動画を撮影する。

動画2

自分のグループの動画を見て、協議する

- ・動画を再生し、自分自身の動きを客観的に見たり、仲間の動きを見たりする。
- ・動画を見て、自分がどのような動きをしていたのかを確認する。
(例: 援助を求める動き、意識や呼吸の有無を見る動き、胸骨圧迫をする動き 等)
- ・できている点、良かった点、課題点や改善点を見いだす。
- ・仲間の動きを見て、良い点を伝えたり、改善点を伝えたりする。



■ ICT 活用のメリット

自分と仲間の動きを可視化し、比較することで、自分の動きを客観視し改善点を考える

動画を見るポイントを事前に焦点化して生徒に伝えておくことで、連絡・通報や運搬も含んだ応急手当の手順や方法について、自分や仲間がどのような動きをしているのかを確認することができる。

また、何ができて、何ができていないのかなど自分の動きの振り返りや仲間の動きへのアドバイスに活かし、一人ひとりのより適切な動きを考えることにつなげることができる。

動画を繰り返し再生することが容易なため、一度見ただけでは気付かなかったことに気付くことができる。

学習内容によってタブレットPCの台数を制限し、対話を生み出す

今回は、1 グループに 1 台のタブレット端末を配付した。このことにより、生徒同士の対話が生まれ、自分だけの視点では気付くことができなかつたことに気付いたり、理解できたりする。もし、1 人 1 台タブレットPCで学習を進めていたら、応急手当の動き方の良かったところや改善点についての話し合いが、グループでうまく進まなかつたかもしれない。

■ 本実践での工夫

動画撮影の目的を明確にする

撮影のポイントとともに、よりよい応急手当、救急体制を考える課題解決のために動画を撮影するという動画撮影の目的を明確に伝えることで、スムーズにグループ協議へと移ることができた。

また、録画を担当する生徒には、良かったことやアドバイスを音声で録音・録画するように指示した。後に動画を見ながら、録画者の気付きをきっかけにみんなで改善点を考えられるようにした。

話し合いを促すために、ワークシートを併用する

本時に至るまでに、事前アンケートを実施し、実習の目的の周知や実技指導を行っている。また、本時(実習)の実施にあたっては、自分や仲間の動きを授業のねらいに沿って考えられるように、①何をしていたか?(動



画を見て確認！)、②他に何ができたか？(グループで考えたり、個人で動画を見たりして意見を出そう)などの項目をワークシートに設け、グループ協議の活性化につなげた。



■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

グループ協議の中で意見が出せない生徒もいたが、担当教員は、グループ間指導の中で個別に声をかけ支援されていた。

保健体育科における ICT 活用のメリットの一つに動きの可視化がある。今回の応急手当のように動きを伴う実習や運動は、その行為の最中は正しい動きをしているつもりでも、実際には自分のイメージと現実の動きにはズレがあることが起こりうる。そのズレを、映像を通して確認することは、生徒たちにとって、自分自身を振り返る良い機会になっている。自分に足りないものは何か、また、もっと伸ばせる部分は何かということ仲間と共有し合い考え、自己の振り返りと新たな課題発見につなげることができる。

次時以降で、今回撮影した動画の中で、良い点を教員がピックアップし、再度動画を全体で共有したり、コメントを共有したりすることを計画されている。

繰り返し再生できること、記録に残ることという利点を最大限に生かして、例えば映像で動きを分析して新たな課題を設定したり、課題解決に向けて試行錯誤したりすることができる。また、生徒同士のコメント等を全体共有することで、条件に応じて一つにまとめるという活動にもつなげることができる。

